

# 1. 調査報告概要表

作成日 平成 21年7月6 日

## 【評価実施概要】

事業所番号	1072600453
法人名	株式会社 八洲
事業所名	グループホーム やまゆりの家
所在地	群馬県 吾妻郡 東吾妻町 大字 原町 50 (電 話) 0279-76-4165

評価機関名	サービス評価センター はあとらんど
所在地	群馬県前橋市大渡町 1-10-7 群馬県公社総合ビル5階
訪問調査日	平成 21年 5月 28 日

## 【情報提供票より】( 21年 4 月 1 日事業所記入)

### (1)組織概要

開設年月日	昭和・平成 14 年 11 月 1 日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	15 人 常勤9専任9兼務2人, 非常勤 4人,常勤換算 12、2人

### (2)建物概要

建物構造	鉄骨 造り 2 階建て 1、2階 併設型
------	-------------------------

### (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36000~37500 円	その他の経費(月額)	円	
敷 金	有( 円) 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円) 無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	400 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	100 円

### (4)利用者の概要(4月1 日現在)

利用者人数	18 名	男性	6 名	女性	12 名
要介護1	2 名	要介護2	0 名		
要介護3	13 名	要介護4	3 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86、2 歳	最低	69 歳	最高	98 歳

### (5)協力医療機関

協力医療機関名	田島病院、神辺歯科医院、吾妻中央病院、中山診療所
---------	--------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

開設者は地域の住民でありすでに地域との関係が築かれている。利用者は自宅に居た時のように多くの面会者が訪れ、地域の行事などにも誘われ参加している。また施設は地域に建物を開放し、地域の人達のごみ収集場所になっていたりと、地域の会議などが会議室を用いて行われている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>理念はまだ作り変えていない。運営推進会議を活かした取り組みは改善されている。介護計画の見直しは努力されているが、改善には至っていない。食事を楽しむ支援は改善されている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者は職員に対して全体会議や朝の会議で伝えている。職員は自己評価を理解し共に取り組み、管理者が取りまとめ記入した。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は定期的に行われている。施設の状況報告、地域の情報など活発な意見の交換がなされている。運営推進会議のメンバーに施設の食事を取ってもらい、食後に味付け・献立等の意見を聞いている。メンバーからは多くの質問が出されている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>管理者は家族の面会時には「心配事や何か意見はありませんか」と家族に繰り返し話しかけている。気軽に意見の言える雰囲気作りや意見の吸い上げをしている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会には入っていないが、地域の行事などの案内は班長や児童、民生委員を通して情報が得られ、馴染みの関係が築かれている。</p>

## 2. 調査報告書

(   部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念として「ここは家 その日その日をその人らしく」とあるが地域との関係は謳われていない。	○	施設運営者は地元の出身者であり、地域の人とは長い付き合いをしてきている。そのため地域の中での理念を謳わなくても、すでに地域に根ざしている。しかし、地域との関係性を理念に謳い、誰からも常に意識され、利用者、管理者、職員、地域住民の共有された旗印になるように盛り込んでみてはどうか。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者、職員は毎日朝の申し送り時と毎月行う全体会議で、理念に添った介護を行っているかを振り返っている。理念は職員間で共有されている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	運営者は地域に長く住んでいる人であり、すでに馴染みの関係が築かれている。施設は地域の人に認められている。地域の班長などから行事や催事など誘いを受けている。利用者は地域に出て行き交流を行っている。また施設を地域に開放している。ごみ収集場所や会議など地域の人に使ってもらっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価は職員全員で取り組んでいる。管理者は全体会議の時などに意見を聞き作成した。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月ごとに開催されている。施設側からは状況報告がなされている。地域からは区・班長などの異動も報告されている。管理者は意見の言いやすい雰囲気を作り、参加者から介護度や認知症についての質問が出ている。また、参加者が利用者と同じ食事して、その後意見等聞いている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営者や管理者は役場に出かけて情報交換をしている。利用者の入所、退所の連絡、スプリングラーの相談、更新申請などで連携している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	職員から毎月請求書と一緒に利用者家族へ健康状態や近況の報告がされている。管理者は電話で身体状況等の報告や意見を聞き、今後の意向の確認をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者は入居時家族に「意見があったら話して下さい」と説明している。入居後も、管理者・職員は家族が意見を言い安い雰囲気作りに努め、「何かありますか」と家族に話しかけている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ここ1年職員の異動は無かった。運営者は利用者へのダメージを少なくするため、職員の入れ替わりは無いようにしている。新しい職員は利用者慣れるまで何回か先輩職員と一緒に仕事をしている。		
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は研修が職員教育には大切な事だと理解している。外部研修と内部研修とがある。外部の研修は運営者が経験年数など配慮して決める場合もある。また、職員の希望する研修にも配慮している。さらに国家資格に対して法人からの補助があるため、職員は研修に参加できている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に加入している。管理者研修、レベルアップ研修などに参加している。また地域のグループホームと連携している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所にあたり家族と本人に施設を見学してもらっている。体験利用することも出来る。また隣にあるデイサービスを利用して馴染んでから入所する事も出来る。利用者の状況や環境などに対応した支援をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者と共に日々を過ごし、支えあう関係を大切にするよう考えている。年間行事は職員が計画し、利用者からは行事の意味や習わし・お供え物等を教えてもらっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	管理者は定期的な電話での連絡で家族からの意向の確認をしている。職員は日常会話の中から本人の意向を汲み取っている。情報は職員間で共有されケアプランに反映させている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	全体会議において職員全員で1ヶ月のプランを振り返っている。ケアマネジャーは家族に連絡し計画されたプランについての同意を確認している。面会時に家族から確認をもらっている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は6ヶ月の見直しと毎月のモニタリングがされている。3ヶ月の見直しは作成時の計画の上に書き足されている。	○	毎月のモニタリングにより見直しがしやすい書類の工夫がされている。3ヶ月の見直しは計画書の上に書き足されているため、計画書第1表の書き換えたものがあるとよいのではないかと。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院支援、教会主宰のコンサートなど利用者の希望により支援を行っている。利用者の中には近くの知り合いの家に掛けて行ったりしている。施設を地域のごみ収集場所に開放している。また会議などにも使ってもらっている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には今までのかかりつけ医となっている。近くの協力病院で利用者専門の時間が取っており、その時に受診する。家族の希望があればかかりつけ医の変更も出来る。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者が入院をした場合には病院、家族の希望を確認しながら施設側もカンファレンスを行い必要なサービスを検討している。最近では入院する人が多いが、家族の希望により家族の協力の下看取りも行った。施設は家族の意向を大切に支援したいと考えている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	法人は職員との間に入職時に守秘義務についての誓約書を交わしている。管理者は日々利用者への声掛けについて尊厳を傷つけないよう指導している。また書類は事務所で適切に管理されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にした支援がされている。起床時間なども個性が尊重され早く起きた人はお茶など職員と飲んでいる。家族からは「規則正しい生活をお願いします」という意見も出た。施設は個人の希望を大切にした支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者は食事モニタリングにより希望のメニューが取り入れられている。食事作りも野菜の下ごしらえなどに参加している。毎月外食会があり楽しみになっている。利用者の希望を聞きながら季節に合った献立を職員が立てている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者は週に2～3回の入浴をしている。その他でも状況によってはすぐに対応している。希望があれば毎日の入浴にも対応出来る体制が出来ている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者は家族からの情報や会話から『好きだった事』などを役割として、してもらっている。利用者は掃除、料理、草むしりなどを行っている。楽しみごとは外食会、ドライブ、カラオケ、おり紙、手芸などを楽しんでいる。気晴らしの支援は散歩、散髪、外出、コンサートなどに参加している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	施設の中だけの支援ではなく散歩や外出など支援されている。また魚を育てたり、ドライブに行くなど戸外に出る機会を多く持っている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵は掛けられていない。センサーの設置はあるが職員は利用者の見守りを行っている。職員は鍵の弊害を理解しており鍵を掛けないケアを行っている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	事業者が自主消防隊員でもあるので月に一度の避難訓練を行っている。法人での消防署指導の訓練も行っている。地域にも消火協力の依頼を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の水分量の目安があり職員は利用者に水分を勧めている。また食事量の摂取記録もある。記録は体調の変化があった時に医療機関への情報提供としている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設は2階立てでありエレベーターで昇り降りできる。共用空間にはテレビ、テーブル、椅子、ソファなどが置かれている。台所に面しているのもので香り、調理の様子を見ることが出来、食事を楽しみに待つ時間がある。テラスからは外を眺める事が出来、2階は高い目線で景色が楽しめる等居心地良い工夫がされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具等は「なじみのものを持ち込んでください」と管理者は家族に話している。室内には写真、作品、テレビなど持ち込まれ個性が出ている。		